

医療について、医師と県民が率直に話す

福岡県医師会医療モニター制度 「メディペチャ」

医療のモヤモヤ、伝えてみませんか。
その本音が、よりよい医療のきっかけに

1/6

『メディペチャ』とは？

「**メディカル**」について、
「**ペチャクチャ**」意見交換する

県民の率直な声に耳を傾けて患者本位の医療につなげたいという思いから、平成15年より実施している福岡県医師会独自のモニター制度。
医療・医師会・医療機関への疑問や要望を双方向の対話につなげる。
めざすのは、県民にとって「**身近で、開かれた医師会**」

2003 年～ 全国に先駆け制度開始

令和8年度で **21** 期目を迎える

これまでの累計参加者 **656** 名

開催概要

開催回数：年1回（3回の会合を実施）

参加者：モニター（10名程度）

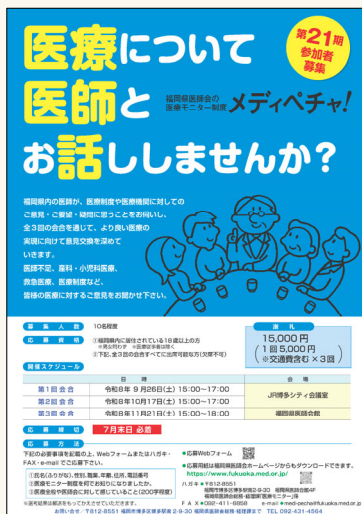
運営会社（3名）

本会担当役職員（数名）

開催場所：福岡市内の会議室 および 福岡県医師会館

2/6

『メディペチャ』の実施方法



01 募集

ポスター、ホームページ、新聞広告、
公式SNSで広く募集
複数チャネルで呼びかける

02 選考

10名程度選考
過去の経験者は原則選出しない

03 運営

司会・進行・発言録の作成等は運営会社に依頼
→第三者の介入により、医師会主導でないことを強調。
モニターが発言しやすくする

3/6

聴く → 解決 → その先へ 3回の対話設計

01 第1回会合

聞き役として、 まずは傾聴

テーマを設けず、医療や医師会への
疑問を幅広く収集。

自由に遠慮なく話せるよう、
医師側は一切発言しない。

02 第2回会合

モヤモヤが納得に 変わる

第1回の声から課題を抽出。

医師（本会役員）も加わり、
医療費の構造、救急医療体制、
医師の勤務環境など
様々な議題について医師と討論する。

03 第3回会合

対話からつながりへ

最終回は福岡県医師会館で実施。
問題点を一つずつ深掘りし、
“より良い医療の実現”につなげる。

終了後は茶話会を開催。
お互いにより近い距離で話ができる。

会合を重ねるほど、立場の違いが「理解」と「信頼」に変わっていく

4/6

モニターの声と医師側の解説例

モニター

// 最初に行くべき科が、素人にはわからない…たらい回しにされて負担。

受診先を選べない不安、待ち時間への不満、救急時の優先順位への疑問。

医師

// 必要に応じて次の先生を紹介することも「かかりつけ医」の役割。是非、「かかりつけ医」をもって。

トリアージの仕組みや、十分な説明を通じて納得して医療を受ける重要性を共有。

待ち時間

病院・診療科選び

救急とトリアージ

セカンドオピニオン

医療現場の人手不足

率直な声が、制度や現場を「自分ごと」として理解する入口になる

5/6

「医師会って、こんなに私たちの身近にあるんだ」

— 参加者アンケートより

県民への影響

- 不安・疑問が解ける
- 医療制度と現場への理解が深まる
- 医療・医療従事者への信頼が高まる

医師会への影響

- 認知度が高まる
- 活動の透明性が伝わる
- 医師会について正しい知識と理解を持つ県民が増える

- ・ 医師会は遠い存在であったし、お医者さん達の特別な集まりであり、私達には無縁のものと思っていました。けれど、超多忙な先生方が時間をとって私達一般の声を同じ目線でわかりやすく聞いて、答えて下さる姿に頭が下がる思いでした。患者と医者の垣根を埋めるとても良い会だと思いました。
- ・ 固いイメージではありましたが、今回の参加で医師会の取組を知ることができ、医師会って、こんなに私たちの身近にあるんだと思い、固いイメージは無くなりました。
- ・ かなりクリーンなイメージになりました。私自身も医師会の事を口コミで多く広めなければと感じました。
- ・ 日頃、聞けない事や医師会の取組について知る事ができ、とても貴重な体験ができました。

6/6